

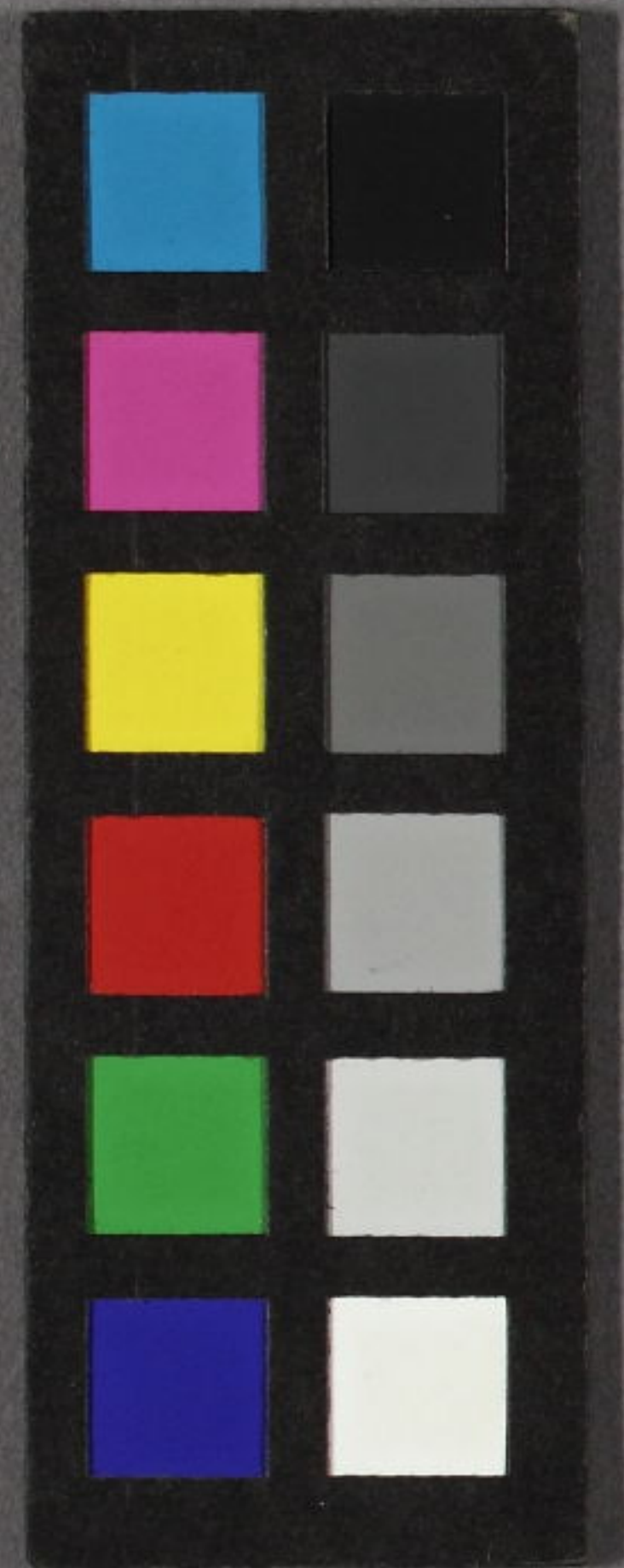
江湖新聞

第七號

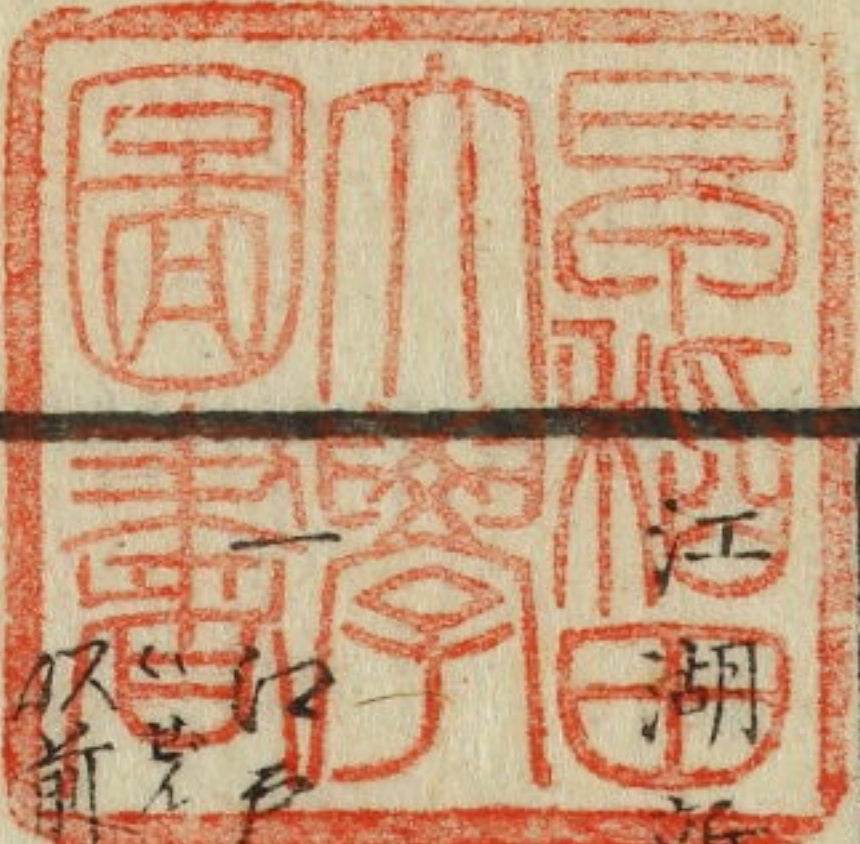


價八分

西垣文庫 特
文庫 10
7287
7



特
人庫10
7287
7



江潮新聞第七号

慶應四年戊辰閏四月十五日

閏四月九日出板横濱ヘラルト新聞紙譯

一 戸迎 きんぎょ 在 ま 東 あづま 西 にし 之 の 支 し 軍 ぐん 戦 せん 及 およ ぶ 事 こと 既 すで 七 しち 度 ど 五 ご 日 にち 七 しち 八 はち 日 にち

一 薩 さつ 摩 ま 八 はち 當 あた 首 くび 糧 りやう 米 まい 差 さ 支 し 困 こん 弊 へい 及 およ び 小 こ 室 むろ 寺 てら に 別 べつ 懸 けん の 大 だい 名 な 市 し

一 亞 あ 墨 め 利 り 加 か 靴 くつ 船 せん ヘル へ ル る マ ま ン ん 船 せん 日 にち 不 ふ 小 こ 疋 ふ 上 じやう 上 じやう 上 じやう 方 ほう

一 加 か 賀 が 會 かい 津 しん 仙 せん 臺 たい 南 なん 郡 ぐん 其 その 外 ほか 小 こ 國 くに の 諸 しよ 侯 こう 一 いつ 同 どう 一 いつ 同 どう 一 いつ 同 どう



二月

三十一

帝(上書)一假令如何様と候へども新政府所取建之付
 其(余)の連判難仕且ツ葡方の士少く江戸府を守るの
 候へ断然不服の旨 奏問せりとす及べり

一帝の所存有様の當節薩摩長州の奇貨とす給へば諸侯
 の蓄志を達するに臨み 帝南面しておのするのよめて不都合
 放武門の熱大府と稱し甘らあらん

一右の如き事柄の所並ある事を懐きその寺院最も多し既に
 京都の僧官はうる事弊の 帝の所職學をたざれば神仏
 の教と遵ひ 帝の所為を力まじくと其支度とありせり
 若し寺院の議繪定まりて廢まるふにても其威力を南方

諸侯の會議又ハ小國方の軍議よりも却て盛多し一折々の
 困り宗門の人心を得威權ある事思ふべきを疑はるべき
 帝ハ其建言所採用はるべきを疑はるべき
 一英國海軍船隊ハ今以て兵庫大坂の要港へ渡りし

○ 佛國巴里新聞紙之條

佛國の帝ハ夜の夜皇居を付ひてい誠場へ所幸なりて御座り
 所候ありし小婦人より然嘆の仕ありを勉めしもの有奉未
 着衣女ありて次女よりあさく籠たりしがその業極めて凡そお
 疎不美の候ありて衆を起し好意を是物の人とす神り候

重ぬものもあゝ皇太后の絶望を汚辱の何あり其の候の
 出さる事めいあつゝとく汚辱仕人の女友を二ホ一巻のされとの
 わけを汚辱の何ありにこの女あもすゆけお答さす汚辱業も
 汚辱ありて候の事さ汚辱ふつぐりしんあも示さす
 汚辱これの妻の身許上に切るるやめいせ思ひ出せしつゝ
 汚辱のあゝ妻友を養ふハ子代中と契りし男のゆて妻を
 取女りゆつんとく汚辱親へ預けしに妻が身許しく汚辱を
 うさす持来め其金さくゆつぐりる親にも兼引せ其男の金
 せん御さく持来しゆつぐり他とたりせめて其其金の十フランも
 汚辱線走御もあらんを懸ふいえる人もさすむくいぬ色さけく

いやーきわさをばりて一人の母さくつゝ汚辱親ある色は
 思ひのたの痛うぬせつゝこれあきタアあうらあ、のた
 愁嘆のわさをばりてつゝあひ出さ汚辱相に養ふとまぢ
 らひたが言上され 皇太后のあせ汚辱中くく
 その便りされを憐れさす身が聖都汚辱存條より千フラン
 せら下皇又老母の養料として外に五百フランをせき賜り
 けふ皇太后の父母たらん汚辱人のかくこそつゝ汚辱も
 皇太后諱ハユーゼニとナシなり 西班牙國貴族の媳女
 あり美人才女の容色何りしが佛國帝那破倫弟
 三世の皇太后となり玉ひ内政のまじりあく國務さす

辨へ居る既に 國帝化國へ行在の旨の機密の
るりなど當りおふたれは當代の賢后ありと皆人稱し其の如

一 近々濟軍艦三艘上方の由廻りてお取極是の事も所勅使方
所由系と用云ふべきことかき中

一 當月朔日尾州密令の書状去ル八日之朝お届キ文中に極々
白ハ會津勢就後より近々信州の押寄せ松本に近操込を
尾張に北の白川に極々尾州殿所人教之書も近操込にお成
前大納言殿以後去月廿六日所出立る中山道筋より上ノ示

了る之度右一条に付守山宿より引戻し由國お成の由

一 尾州竹腰籠若先頃より鐘とちお成の趣音當有志之黨とて
之を出し田宮如雲と黨を遣ふと録り強勅を起し此外に
風波何れとも不詳なる事を志すべ

一 歩兵頭大書幸助の日光辺より會津の事より極々人の西洋兵學
長ドハ人多れは當月上旬會津侯より林正十兵衛を使者と爲し
若侯より大書の時服刀を贈り此以且ッ若松城外境迄自ら出
近ハお成軍師之禮を以て榮く所待遇と成り此中具若松の事

銃隊個練の如く熱達し戦事支度十分を整ひし

一 大総督府より以旗本以家人一統の以救とて金十五万兩僅一角

一万兩宛て下を叙以程回安殿の以沙治有之に処因安殿の家老
総督府の以出右候に以新を以給とて都の人心を激し不徳
者お堪ふに金銀を以給元之に以封中とお殿方人の以合
く為之給も有なる旨中上迄に付以救令し事ハ先の以合とお殿

一 當月六日夜歩兵頭並松浪種之丞陸軍奉行流の令に
然物に脱走せる撤兵隊を獲得とて之を献上総捕に渡村

本陣めて議論の滞りゆ変不意に切掛ケらば遂に病令せる
已法風吹あり実事多しは憐むべきもの人の平生其家貴
何りて為事以来所家の為め力を盡せし人との由

一 此程市川八幡迎戦事之旨上梅林の以圍ひ有之ハトロンを指し
戦地におあり込方のにせしに大小の差ありて又以間合中不意
と為ひ改め給ふ如蘭装之二銃のハトロンを以兵士所給
銃の英吉利装のインライフルライフルとの由戦事の時以倉
庫間を換へし事違はるべき事なれば其日より以付ケ候へ
と横濱ありて外國人等其より

○今故^{さいま}救^{すけ}末^{すえ}らりて安^{やす}依^よ優^{ゆう}中^{ちゆう}ゆ^ゆ達^{たつ}者^{しや}と^と存^{ぞん}ゆ^ゆの^の頂^{てい}戴^{たい}也^や
 有^あ之^の市^し川^{がわ}園^{えん}花^か一^{いつ}人^{にん}難^{なん}有^あ車^{くるま}ま^まり^りと^と存^{ぞん}ゆ^ゆの^の頂^{てい}戴^{たい}家^け内^{ない}一^{いつ}回^{かい}あ^ある^る
 餘^{あま}多^たと^と園^{えん}子^こ法^{ぽう}有^あ名^なと^と依^よ優^{ゆう}偏^{へん}く^く之^の記^き音^{おん}世^{せい}類^{るい}心^{しん}掛^かて^て感^{かん}入^にん^ん之^の

○田州信州より使ありて彼地ノ寧信ヲ得たり并八号ノ出ス

